Wise FAXNET 99.7

発行：株式会社ワイズ
TEL.0269-65-4710 FAX.0269-65-4745
[URL] http://www.wise.co.jp
Wise Corporation

送信枚数　１枚

＜キャッシュフローって何＞

キャッシュフローとは、簡単に言えば、中小企業（経理担当重役などがいない会社）の社長さんが毎日頭を悩ませている資金繰りのことです。

昔から勘定あって銭足らずという諺がありますが、この銭足らずの部分がキャッシュフローなのです。我々は商品を掛けで売った場合これでなんぼ儲かったと胸算用します。ところが従業員の給料は現金で払わなくてはなりませんし、税務署は儲かる予定の額に税金をかけて現金で払えと言います。これでは銭は足らなくなります。そこで、中小企業の社長さんたちは銀行に運転資金とか納税資金とかを貸してくださいと駈けずり廻ることになるのです。

いま、改めてキャッシュフローが問題となってきたのは、中小企業の資金繰りとは関係なく、上場企業のような大企業の従来の決算のやり方ではこの銭の部分が明らかでないため、決算上利益があっても、極端な場合会社が倒産してしまういわゆる黒字倒産が起きる危険性があるので、投資家（株主）にとって、果たしてその会社が健全であるかどうか判定できない不安があったからなのです。

とくに自分のものでない預かりものの資金を運用する機関投資家にとっては、キャッシュで投資した資金が、どれだけキャッシュで回収できるのかという投資資金の効率を第一に考えますから、アメリカの株式市場のように機関投資家が大きな役割を占めるところでは、当然キャッシュフロー計算書のような情報をほしがるようになってきます。

しかも今までのような単なる資金繰表ではなく、フリーキャッシュフローという新たな概念を使い、これを資本コストレートで割引いて現在価値を計算し、キャッシュフローの計算課程を明らかにすることにより、投資判断の資料とする必要が出てきました。

こう書いても、お読みになる方はおそらくどんな計算書なのか見当もつかないと思いますが、いま話題になっているキャッシュフロー計算書は、上場企業にのみ課せられた義務なので、我々のように株主は同族関係者で、事業と言うより家業とか生業と言った方が正確な中小企業者にとって、自らの資金繰りには必要な計算書ですが、銀行や税務署に提出しなければならない計算書ではありません。

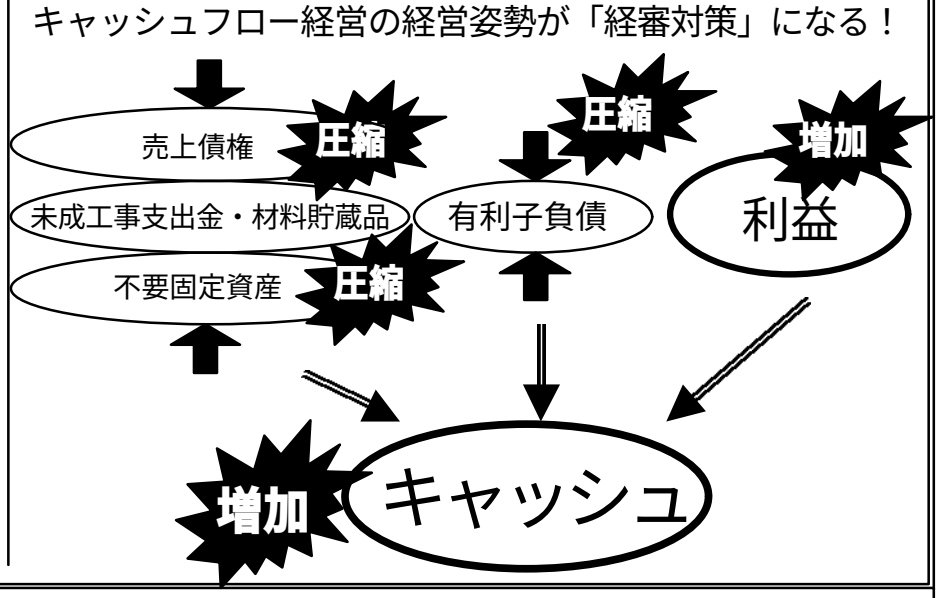
しかしこのたびの経審では、このキャッシュフローを判定基準として新しく取り上げられることになりました。

直接的には収益性Ｘ３でキャッシュフロー（狭義のキャッシュフロー）対売上高比率というのがあり、株主配当金や役員賞与金を支払わなければ、つまり内部留保を手厚くすれば点数アップにつながるようになっています。同族会社ならば二重課税になる配当や役員賞与をあきらめて会社を肥らせた方がベターな選択だろうと思いますが、どうでしょうか？

また、間接的には図表にありますように資産圧縮をすることにより、広義のキャッシュフローを豊かにすれば、流動性、安定性、健全性の比率は上昇しますし、もし有利子負債があるのでしたら、これを返済すれば、収益性の改善にもなりますから、この際、キャッシュフローにも注意を向けるようになさったらよいと思います。

なお、狭義、広義のキャッシュフローについては顧問の先生方にお尋ね下さい。

公認会計士・税理士　松田　文男



Wisdom99 経審点数アップシミュレーションシステム（99 年版新発売!!）
★新経審でもオートシミュレーション機能で点数がどんどんあがる

□　資料請求
□　注文希望（注文用紙を送付します。）

＊すでにご注文をいただいたお客様にもこの FAX は届いております。

◆資料請求・ご注文は上欄に必要事項を記入の上、ＦＡＸにて当社までご返送下さい。

下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TEL のみをご記入下さい。	
貴社名	
ご担当者様	ご役職・部署名
ご住所（商品送付先）　〒	
TEL	FAX
e-mail	決算月